CASIO

P

IDS-200J/250J

取扱説明書

保証書 別添

このたびは弊社製品をお買い上げくださいまして誠にありがとうございます。末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願いいたします。
本機を安全に正しくお使いいただくための注意事項「安全上のご注意」を本書に記載しています。本機をご使用になる前に、必ずお読みください。なお、この取扱説明書は大切に保管し、必要に応じてご覧ください。

カシオ計算機株式会社
〒 151-8543 東京都渋谷区本町 1-6-2

本機の特長

- ●電波時計（国内 2 局対応自動選局機能付）
  福島県「おおたかどや山」（40kHz）
  佐賀県と福岡県の境「はがね山」（60kHz）
- ●六曜表示
- ●西暦／年号／旧暦表示
- ●第何曜日表示
- ●センサーにより、温度・湿度を表示
- ●ソーラー発電と電池を併用した長寿命

ご使用上の注意

- ●本機は精密な電子部品で構成されていますので、「極端な温度条件下」、「強い磁気の当たる場所」、「はげしい振動のある場所」での使用や保管および「強いショック」をさけてください。
- ●高温では電池寿命が短くなったり故障の原因になったりしますので、暖房器具の近くや直射日光の当たる所では使用しないでください。
- ●浴室など湿気の多い場所では使用しないでください。
- ●以下のようなところに本機を置くことはお避けください。
  · テレビの上など（テレビ画面に色むらが起こる場合があります）
  · 時計、キャッシュカード、フロッピーディスク、プリペイドカード、カセットテープの近くなど
- ●極度の静電気により誤った表示をしたり、電子部品が破損する場合があります。
- ●静電気により一時的に液晶の点灯していない部分ににじみ現象が発生することがありますが、機能に影響はありません。
- ●本機を分解しますと、精度や機能が低下しますので、絶対に分解しないでください。
- ●汚れは、「乾いた柔らかい布」か「中性洗剤に浸し固くしぼった布」でおふきください。シンナー・ベンジンなどの揮発油やアルコール類では絶対にふかないでください。
- ●液晶表示は、使用温度範囲（0℃～ 40℃）を超えると、表示が見にくくなることがあります。
- ●液晶表示は、見る方向によって表示が見にくくなることがあります。
- ●この製品は、日本電波仕様です。海外で使用した場合、まれに日本標準電波を受信して、日本の時間を表示してしまうことがあります。海外でのご使用には対応しておりません。
- ●本機はソーラー発電により動作しますが、以下のような高温下に本機を設置することはお避けください。
  · 炎天下に駐車中の車のダッシュボード上に放置
  · 白熱ランプなどの発熱体に極端に近づけての放置
  · 直射日光に長く当たったり、高温になるところへの放置

万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

安全上のご注意

絵表示について

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、色々な絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

絵表示の例

△ 記号は「気をつけるべきこと」（注意）を意味しています（左の例は感電注意）。

⃠ 記号は「してはいけないこと」（禁止）を意味しています（左の例は分解禁止）。

● 記号は「しなければならないこと」（強制）を意味しています（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

分解しないでください

本機を分解しないでください。ケガをしたり、本機が故障する原因となることがあります。

設置場所について

本機を不安定な場所に置いたり、不確実な掛け方をしないでください。倒れたり、落ちたりしてケガや故障の原因となることがあります。

湿気やほこりの多い場所には置かないでください。火災の原因となることがあります。

台所や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たる場所には置かないでください。火災の原因となることがあります。

⚠ 警告

袋をかぶって遊ばないでください

製品本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、手の届かない所に保管または廃棄してください。窒息の原因となります。

電池の取り扱いについて

使用している電池を取り外した場合は、誤って電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子様にご注意ください。

電池は小さなお子様の手の届かない所へ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

電池は、充電や分解、ショートする恐れのあることはしないでください。また、加熱したり火の中へ投入したりしないでください。

電池について

電池は使い方を誤ると液漏れによる周囲の汚損や、破裂による火災・ケガの原因となることがあります。次のことは必ずお守りください。

- 極性（⊕と⊖の向き）に注意して正しく入れてください。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。
- 長時間使用しないときは、本体から電池を取り出しておいてください。
- 本機で指定されている電池以外は使用しないでください。

電池の着脱を長く伸ばした爪で行うと、思わぬケガをおこす恐れがありますので、長く伸ばした爪での着脱はおやめください。

時計が止まった場合は、速やかに電池を交換してください。また、使用しないときは電池をはずしておいてください。

製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz

表示内容：カレンダー 西暦表示（年・月・日・曜日）／
年号表示（年・月・日・曜日）／
旧暦表示（月・日・曜日）*1 *2
六曜表示 *2、第何曜日表示
時刻表示（時・分・秒）、午後マーク／ 24 時間制表示（24H）、温度表示、湿度表示

電波受信機能：自動受信（7 回／日 *）、手動受信
* 受信開始時刻＝午前 2：01 ／午前 3：01 ／午前 6：01 ／午前 10：01 ／午後 2：01 ／午後 6：01 ／午後 10：01
自動選局機能
［受信電波＝長波標準電波　JJY
周波数＝ 40kHz ／ 60kHz ］

精度：電波受信による時刻修正が行なえない場合は、平均月差± 30 秒以内

温度計測機能：計測範囲＝ 0℃～ 40℃ *3
計測精度＝± 2℃（0℃～ 40℃）*4
• 2 分に 1 回計測します。*5、最高／最低表示（今日、前日）

湿度計測機能：計測範囲＝ 20%～ 90%
（5℃～ 45℃において結果表示）*6
計測精度＝± 10%（5℃～ 40℃）
（例　湿度 50%の場合、40%～ 60%となります）*4
• 2 分に 1 回計測します。*5、最高／最低表示（今日、前日）

その他：12 ／ 24 時間制表示切替え、コントラスト調整

付属品：壁掛け用ネジ

主要回路素子：音叉型高性能水晶振動子、CMOS-LSI

使用温度：0℃～ 40℃

使用電池：リチウム電池（CR123A）1 個

電池寿命：約 5 年
明るい場所（200lx 以上）で 1 日 8 時間以上使用した場合（電波受信 7 回／日使用した場合）

*1 ＝ 本製品の旧暦のベースになったものは日本最後の正式な太陰太陽暦「天保壬寅暦」です。ただし計算に使用した天体の位置及び時刻は、現在の理論と時刻（日本標準時）ですので天保暦の定義とは厳密には一致しません。

*2 ＝ 旧暦計算、六曜表示に関しては「暮らしに生かす旧暦ノート」著者　鈴木充広　様の監修を受けて算出しております。暦について更に詳しい情報を知りたい場合はこよみのページ URL「http://koyomi8.com」を参照してください。

*3 ＝ • －0.1℃以下、40.1℃以上でも温度計測を行いますが、本機の温度保証範囲外となります。
• －20℃以下は“LO”表示、50℃以上は“HI”表示となります。

*4 ＝ 温度・湿度表示は時計に内蔵されているセンサーにより、時計内部の温度・湿度を計測／表示するものです。そのため、急激な変化が起きても、その温度や湿度を表示するまで（時計内部がその温度や湿度と同じになるまで）約 30 分程度かかります。なお、計測機能上、本機を冷・暖房器具の送風口の近くで使用しないでください。

*5 ＝ 電波受信中、時刻セット中は計測を中断します。

*6 ＝ • 19%以下は“LO”表示、91%以上は“HI”表示となります。
• 湿度表示は温度が 5℃～ 45℃の範囲外では“－－”表示となります。

電波時計について

● 電波時計とは

正確な時刻情報［日本標準時］をのせた長波標準電波（JJY）を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。

日本標準時：日本の時刻のもとになるもので、テレビの時報などに利用されています。
この標準時は「セシウムビーム型原子周波数標準器」などにより制御されています。

電波時計は正確な日本標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理などにより、時刻表示に 1 秒未満のずれが生じます。

● 標準電波

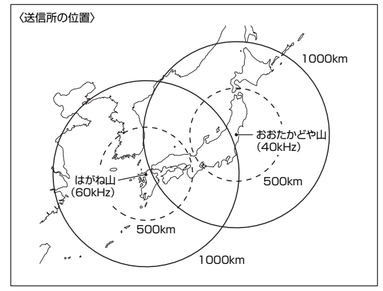
標準電波は独立行政法人情報通信研究機構（NICT）が運用しており、福島県の「おおたかどや山」（40kHz）および佐賀県と福岡県の境の「はがね山」（60kHz）から送信されています。
この標準電波はほぼ 24 時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策などで一時送信が中断されることもあります。

● 電波の受信範囲の目安

条件の良いときは、送信所からおよそ 1000km 離れた場所でも受信することができます。

- ただし、約 500km を超えると電波が弱くなるので、受信しにくくなることがあります。
- 受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や天候、使用場所、時間帯（昼／夜）などによって受信できないことがあります。
- 電波の特性により、夜間の方がより受信しやすくなります。
- 一般的に送信所からの距離が近い方の電波が受信しやすいと考えられますが、電波環境や使用場所によっては、送信所からの距離が遠い方の電波が受信しやすい場合があります。

〈送信所の位置〉

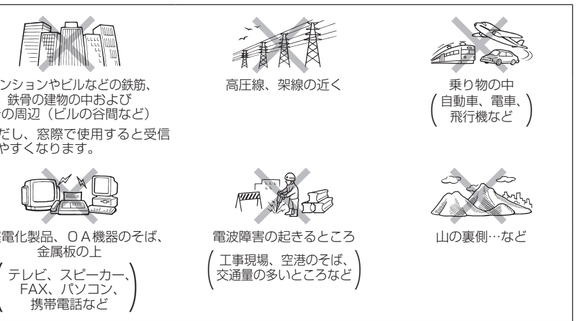


● 電波受信について

本機は「おおたかどや山」（40kHz）と「はがね山」（60kHz）の 2 局より受信しやすい方の電波を自動的に選択し受信を行います（自動選局機能）。通常は毎日、電波受信を自動的に行います（自動受信）。

● 使用場所について

本機は、テレビやラジオなどと同様に、電波を受信するものです。本機を使用するときは、「電波を受けやすい」部屋の窓際などでご使用することをおすすめします。
右記のような場所では、電波を受信しにくくなりますので、このような場所は避けて本機をお使いください。

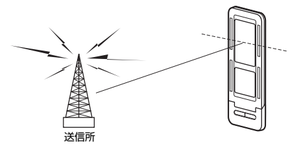


● 正しく電波受信するために

- 電波受信できる場所でお使いください（「使用場所について」参照）。
- 本機を電波送信所方向に向けると、受信しやすくなります（本機に内蔵されている受信アンテナと電波送信所が垂直方向になるようにすると、最も受信しやすくなります）。

最も受信しやすい設置のしかた

（・時計表示部または裏面を電波送信所に向かい合うようにする
・金属板の上などを避けて窓際で行う）



- 受信中（受信インジケーター表示中）に時計を動かしたりボタン操作をしないでください。
- ボタン操作で現在時刻を修正すると、以後 24 時間自動受信は行ないません。ただし、この間に手動受信を行うと、その時点で自動受信禁止を解除します。
- 電波受信を行わない間は、「製品仕様」記載の精度で計時します。
- 電波障害により、誤った信号を受信することがあります。
- 電波の自動受信は、1 日 7 回（午前 2：01 ／午前 3：01 ／午前 6：01 ／午前 10：01 ／午後 2：01 ／午後 6：01 ／午後 10：01）行います。
  ただし、時刻／カレンダーの「セット状態」になっている場合は、自動受信は行いません。

電源に関するご注意

本機の電源について

本機は以下のようなハイブリッド方式による電源システムです。

明るい場所で使用する場合・・・電池＋ソーラー発電で動作します（ソーラー発電が電池を補助します）。

暗い場所で使用する場合・・・・電池で動作します。

明るいところでご使用になりますと電池を長持ちさせることができます（充電はされません）（「製品仕様」参照）。

- ソーラーパネルに、時計の周囲にあるものがかからないようにご注意ください。ソーラーパネルが一部でも隠れていると、発電効率が著しく低下します。
- 電池が消耗しますと一般的に以下のようなことが起こります。このようなときは長時間放置せず、速やかに新しい電池と交換してください（定期的な交換をおすすめします）。
  ➡ 誤動作（時刻やアラームなどのリセット、報音の停止、時刻狂いなど）することがあります。
  ➡ 液晶表示は「薄くなったり」「消えたり」します。
  ➡ アナログ時計は「時計が遅れたり」「針が止まったり」します。
- 付属の電池は充電式ではありません。絶対に充電しないでください。
- お買い上げ時に付属している電池はモニター用電池 * のため、電池新品時の電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
  * モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。
- 電池が液漏れを起こした場合は液に触れずにすぐにふきとってください。

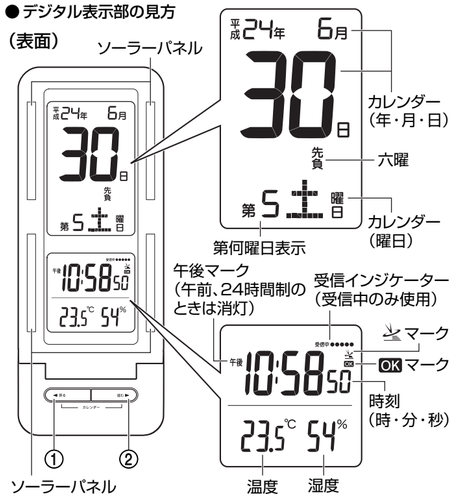
Printed in China　MA1110-B

各部の名称と表示の見方

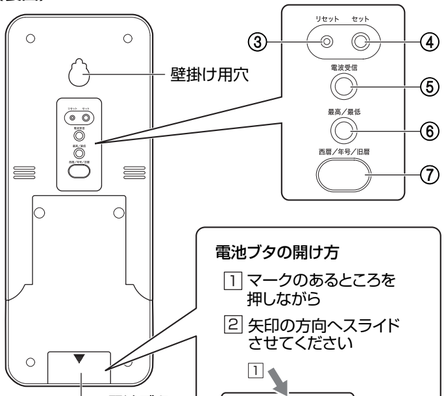
- ボタンやスイッチなどを操作するときは落下によるケガ、および器物の破損を防止するためにも、必ず本機を壁から取り外して操作してください。
- 図は操作説明用ですので、実際の製品とはデザインなどが異なることがあります。

●デジタル表示部の見方

（表面）



（裏面）



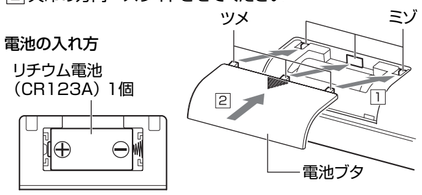
● 電池交換のしかた

電池ブタの閉め方

1 電池ブタのツメを時計本体のミゾにあわせます
2 矢印の方向へスライドさせてください

電池の入れ方

リチウム電池（CR123A）1個



① ボタン（カレンダー　戻る）、② ボタン（カレンダー　進む）
カレンダーを戻す／進めるときに使います。

③ ボタン（リセット）
電池交換後、必ず押します。
- ボタンが押しにくい場合は先端の細いもので押してください（製品を傷つけないようご注意ください）。

④ ボタン（セット）
現在時刻などを合わせるときに押します。

⑤ ボタン（電波受信）
すぐに電波を受信したいときに押します。

⑥ ボタン（最高／最低）
押すと今日と前日の最高温度、最高湿度、最低温度、最低湿度を見ることができます。

⑦ ボタン（西暦／年号／旧暦）
カレンダーの西暦／年号／旧暦の切り替えができます。

はじめてお使いになるときは（電池交換時もご覧ください）

「各部の名称と表示の見方」も一緒にご参照ください。
なお、本機は置いて使用することもできます。「手順 7」の「置き時計として使用する場合」をご参照ください。

1 「表示用シール」を取り外します

機種によりデジタル表示部に「表示用シール」をつけて出荷しております。
ご使用の前に必ずこの「表示用シール」を取り外してください。

2 電池を入れます

電池ブタを開き、⊕ ⊖の向きに注意して、電池を正しく入れます（「各部の名称と表示の見方」の「電池交換のしかた」参照）。

3 リセット操作を行います

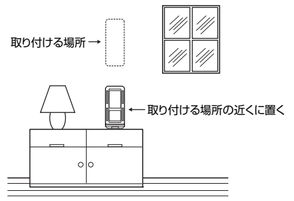
③ ボタンを押します。
- ボタンが押しにくい場合は先端の細いもので押してください（製品を傷つけないようご注意ください）。

デジタル表示部が「午後 12：00 00」になります。

- 電池を入れた時点で時計としての動作が始まっていますが、そのままリセット操作をしてください。

4 使用する場所（の近く）に置きます

壁に掛ける場合は、取り付ける場所の近くに置いてください。
- 「置き時計として使用する場合」をご覧になり、スタンドをご使用ください。



5 電波受信の状態を確認します

⑤ ボタンを押します。
- 使用する場所が電波を受信しやすいかどうかを受信インジケーターで確認します。
- ⑤ボタンを押さない場合でも、「午後 12：01 00」になると自動的に電波受信を開始します。

- 電波を受信中は受信インジケーターで受信状態をお知らせします。電波を受信しやすいと多く点灯します（最大 5 個）。
- 受信インジケーターは使用場所を決める際の目安としてお使いいただけます。
- 1 回の電波受信は約 2 ～ 14 分間です。
- 電波を受信中はボタン操作をしないでください（電波受信を終了します）。

6 電波受信の結果を見ます

電波の受信に成功すると “OK” マークと “” マークが点灯します。

- “OK” マークと “” マークは正しい時刻が表示されているかどうかの目安になります。
- “” マークは、電波の受信に成功していても午前 2 時と午前 3 時になると一度消灯します。その後、電波の受信に成功すると再び点灯を継続します。

● 電波を受信できなかった場合

➡ 数分後に電波の受信を終了します（そのままの時刻で計時されます）。
➡ 受信状態が不安定で、時刻や月日の一部が修正されることがあります（“” マーク不灯）。
上記のような場合は「電波を受信しにくい場合」をご参照ください。

● 1 ～ 2 週間電波受信の様子を見ます。

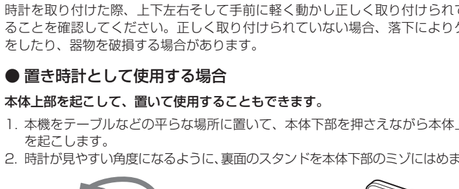
電波受信は地形や建物の影響を受けたり、季節や天候、使用場所、時間帯（昼／夜）などによって変わります。
1 ～ 2 週間様子を見ることをおすすめします。

> “” マークが常に点灯している、または点灯しているときが多い
> ➡ そのまま、その場所でお使いになれます。
>
> “” マークが全く点灯しない、またはときどきしか点灯しない
> ➡ その場所では電波受信しにくいので、向きや場所を変えてください。
> ➡ その場所で使用する場合はボタン操作で時刻を合わせてご使用ください（「電波を受信しにくい場合」参照）。
> そして受信可能な別の場所でときどき電波受信を行ってください。

7 本機を取り付けます

- 電波受信の様子を見た場所と取り付ける場所で、電波受信に差が出る場合があります。
- 時計を取り付ける場合、壁や時計を汚したり痛めることがありますのでご注意ください。

● ネジを壁に取り付けます



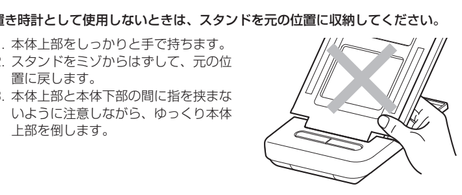
取り付ける場所は部屋の照明が当たる場所をおすすめします。

ネジを梁が通っている壁面または柱にしっかりねじ込みます。

取り付ける前に壁の材質・構造をご確認ください。付属のネジは指定の場所（梁、木の柱、木質の厚い壁）以外に使用しないでください。指定の場所以外に使用した場合、落下によりケガをする場合があります（石膏ボード・コンクリート・薄い化粧ベニヤ板などには使用できません）。

● 時計をネジに掛けます

横から見た図　　正面から見た図

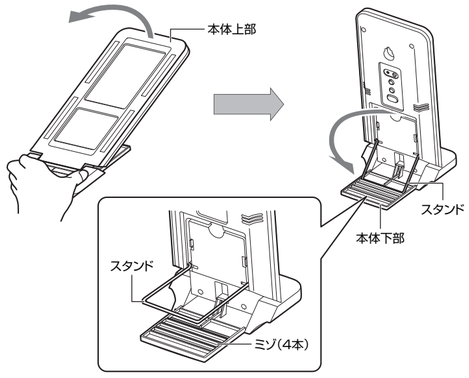


時計を取り付けた際、上下左右そして手前に軽く動かし正しく取り付けられていることを確認してください。正しく取り付けられていない場合、落下によりケガをしたり、器物を破損する場合があります。

● 置き時計として使用する場合

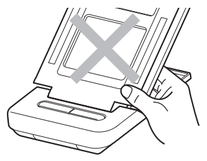
本体上部を起こして、置いて使用することもできます。

1. 本機をテーブルなどの平らな場所に置いて、本体下部を押さえながら本体上部を起こします。
2. 時計が見やすい角度になるように、裏面のスタンドを本体下部のミゾにはめます。



置き時計として使用しないときは、スタンドを元の位置に収納してください。

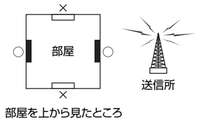
1. 本体上部をしっかりと手で持ちます。
2. スタンドをミゾからはずして、元の位置に戻します。
3. 本体上部と本体下部の間に指を挟まないように注意しながら、ゆっくり本体上部を倒します。



電波を受信しにくい場合

● 電波を受信しにくい場合

電波受信は地形や建物の影響を受けたり、季節や天候、使用場所、時間帯（昼／夜）などによって変わります。
「電波時計について」の「使用場所について」および「正しく電波受信するために」もご参照の上、**＜電波受信の方法＞**を試して 1 ～ 2 週間様子を見てください。



＜電波受信の方法＞

本機の向きや場所を変えて ⑤ ボタンを押してください（再度、電波受信を行います）。

● 電波を受信しにくい状態が続く場合

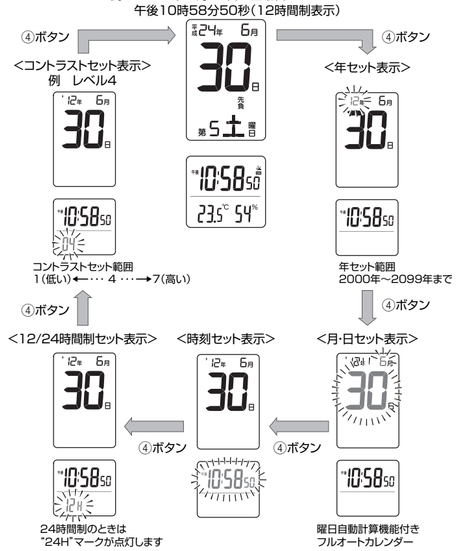
カレンダーや時刻などをボタン操作でセットして使用します（「各部の名称と表示の見方」も一緒にご参照ください）。

1 セット状態に切り替え、セットする項目を選びます

④ ボタンを押すごとに以下の順で表示が切り替わります（「各部の名称と表示の見方」参照）。

➡ 各表示の点滅箇所がセットできます。

＜通常表示＞
例　2012年 6月30日　土曜日
午後10時58分50秒（12時間制表示）



- ① ボタンおよび ② ボタンは、＜ 12 ／ 24 時間制セット表示＞と＜コントラストセット表示＞以外のとき、それぞれ押し続けると早送り／戻しができます。
- ＜時刻セット表示＞のときにボタンを押して分を進めた（戻した）タイミングで 00 秒になります。
- “” や “OK” が点灯しているとき、年、月・日、時刻を修正すると各マークは消灯します。

3 通常表示に戻します

④ ボタンを押して＜通常表示＞に戻します（「各部の名称と表示の見方」参照）。

➡ ＜通常表示＞に戻ったときに点滅は終了します。
➡ テレビや電話サービスなどの時刻と照合してください。
- セット表示で何も操作を行わないと、約 2 ～ 3 分後に自動的に＜通常表示＞に戻ります。

4 再度、電波受信を行います

⑤ ボタンを押して電波受信を行います（「各部の名称と表示の見方」参照）。
- ボタン操作で現在時刻などを修正すると、以後 24 時間は自動受信を行いません。ただし、この間に ⑥ ボタンを押して電波受信を行うと、通常の自動受信を行うようになります。
- 電波を受信しにくい状態で使い続ける場合は、受信可能な別の場所でときどき電波受信を行ってください。

表示のコントラストを調整する

コントラストを 1 ～ 7 の範囲で調整できます。

「電波を受信しにくい場合」の手順 1 ～ 3 を参照し、＜コントラストセット表示＞でコントラストを調整します。

カレンダー機能の使い方

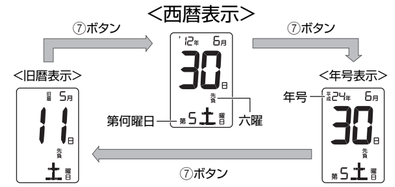
● カレンダー機能

- 西暦表示／年号表示／旧暦表示を切替えて見ることができます。
- 六曜を見ることができます。
- 月毎の第何曜日を見ることができます。病院の休診日やお店の休日、ゴミの回収日などの確認に便利です。
- カレンダーの日付を送ったり、戻したりして曜日や六曜を見ることができます。

● 西暦表示／年号表示／旧暦表示の切替え

⑦ ボタンを押すごとに切り替えることができます（「各部の名称と表示の見方」参照）。

＜西暦表示＞



カレンダーの範囲は以下のようになります。
西暦：2000 年～ 2099 年。表示は下 2 桁を表示しています。
年号：平成 12 年～平成 111 年。表示は下 2 桁を表示しています（平成 100 年は「平成 00 年」と表示）。
旧暦：対応は西暦 2006 年～ 2030 年までとなります。範囲を超えた場合はバー表示となります。
六曜：表示範囲は西暦 2006 年～ 2030 年までとなります。

● カレンダーの送り／戻し

⑦ ボタンを押して見たい表示（西暦表示／年号表示／旧暦表示）に切り替えます（「各部の名称と表示の見方」参照）。

➡ 各表示でカレンダーの日付を送ったり、戻したりできます。
① ボタンまたは ② ボタンを押すと「年」「月」「日」が点滅します。
点滅中に ① ボタンを押します・・・カレンダーの日付が戻ります。
点滅中に ② ボタンを押します・・・カレンダーの日付が進みます。
- 送ったり、戻したりした表示は、数秒後に現在の日付に戻ります（表示を保持したい場合は ① ボタン、② ボタンを同時に押してください。押している間表示は保持されます）。
- ① ボタンおよび ② ボタンは、それぞれ押し続けると早送り／戻しができます。

温度・湿度表示について

● 最高温度・最高湿度表示／最低温度・最低湿度表示

本機は計測データの中から以下のデータを自動的に記録します。⑥ ボタンを押すと表示を切り替えて見ることができます（「各部の名称と表示の見方」参照）。

- 今日の最高温度・最高湿度表示
- 今日の最低温度・最低湿度表示
- 前日の最高温度・最高湿度表示
- 前日の最低温度・最低湿度表示

各データは夜の 12 時に更新されます。

- ⑥ ボタンを約 1 秒間押し続けると、表示の自動切替えを行います（数秒間隔で表示切替え）。表示の自動切替えは、今日のデータのみ行います。自動切替えが有効になったとき “最高” “最低” のマークを残して温度と湿度のデータが約 2 秒間消えます。

その後、表示の自動切替えを行います。自動切替えを解除するには再度 ⑥ ボタンを押してください。

時刻表示を切り替える

時刻表示を 12 時間制または 24 時間制に切り替えることができます。
「電波を受信しにくい場合」の手順 1 ～ 3 を参照し、＜ 12/24 時間制セット表示＞で 12 時間制と 24 時間制を切り替えます。

12 時間制に切り替えた場合：午後の時間帯には、“午後” マークが表示されます。
24 時間制に切り替えた場合：“24H” マークが表示されます。